

” 世知原っ子に「夢」と「笑顔」と「達成感」を”

夢をもち、心豊かで、たくましく生きる子どもを育成する



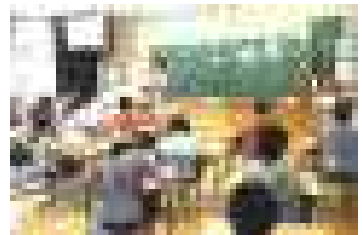
開 知

○笑顔いっぱい
○学びいっぱい
○元気いっぱい

世知原小だより第14号 平成30年6月18日文責 久保 克則

学校開放週間へのご来校に感謝いたします

先週の「学校開放週間」期間中、多くの方々に、ご来校いただき誠に感謝申し上げます。佐世保市の「心を見つめる強調月間」の取組として、①心の教育の更なる充実②コミュニケーション能力の向上③子どもの居場所づくり④学校と家庭、関係機関との連携・協働を掲げ、各小中学校で実施しています。本校でも、期間中子どもたちは、授業や様々な体験活動をとおしていきながら心の教育を中心に学ぶことができました。14日（木）の全学級における「道徳」の授業参観には、137名の保護者、6名の地域の方々にご来校をいただき、多くの参観者にみなさんに、本校が実践している心の教育の一端をご覧いただくことができたと思います。また、懇談会の後には、PTAの主催する救急救命講座にも、多くの保護者の方々にご参加いただき、「佐世



保消防局 祝橋出張所」の隊員の方々にていねいな指導をいただきました。保護者の皆様にも積極的に取り組んでいただき、心肺蘇生法が一人では体力的にきつく、周りにもできる人が必要なこと、AEDの仕組みや正しい使い方、注意点を改めて知ることができ、終わった後のみなさんの表情が、笑顔で達成感に満ちていたのが印象的でした。

最後に、私の方でお礼を言う機会がありましたので、話をさせていただきました。

実は私、50年ちょっと前の幼稚園生の頃に、近所にある「大野川」で、どうしてなのかは覚えていないのですが、川に落ちておぼれてしまいました。流されてしまい、子ども心に死を感じました。幸い、一緒に来ていた中学生のお兄さんに助けられました。運が悪ければ命は助かっていません。それ以来生かさせた命を大事にしなければと過ごしてきました。私は、その1回だけの経験ですんでいますし、ほとんどの方々が命の危険にかかわるような場面に遭遇することはないと思いますが、毎年日本全国で、海や山の事故、交通事故、スポーツでの事故、あるいは突然の心臓発作などによって命を落とされた方の報道があります。ですから、もしかし

たら、この先、人の命にかかわる場面に遭遇するかもしれません。そうしたときに救急救命措置ができれば、救える命が増えていくのではないのでしょうか。そういったことから、来年度も開催されると思いますので、1年先の話ですが、ぜひ多くの方々のご参加をお願いいたします。

この日以外の「学校公開週間」にご来校いただいたのが5名の保護者、24名の地域の皆様でした。まだまだ校長のアピールが足らなかったなあと反省しています。昔から「学校の敷居は高い」と言われていますが、少しでも来校しやすいようにと「開かれた学校」を謳って、基本的には1年中、平日はいつでも学校を解放しています。不審者の侵入が心配されますが、本校は入口すぐに事務室があり、透明ガラスになっていて、だれが来たかが分かりますし、万が一の時にはすぐ横の校長室や職員室にいる教職員で対応することができます。

日頃からの子どもたちの学校生活の様子を、いつでもご覧になってください。お仕事等でお忙しいとは存じますが、もし時間がとれましたら、是非ご来校ください。その際には、校長室にもお声をおかけください。寂しがり屋の校長が、満面の笑顔でお迎えします。よろしくお願いします。